

台北医科大学交流プログラム in 台湾 (台北)

2016/03/05~2016/03/19

淡路祐希子 (4年) 遠藤優 (4年) 高石宏和 (3年) 中村友亮 (4年) 野寄修平 (4年)
全員看護学コース

渡航先での活動内容

講義・Presentaion



東洋医学についての講義



日本・台湾の学生によるプレゼンテーション (日本・台湾の医療・看護についてディスカッション)

病院見学・Clinical Observation



台北医科大学付属病院見学



萬芳病院のヘリポート見学

City tour (施設見学)



Taipei U Life Village (悠活体験館)



長庚養生文化村 (介護を必要としない高齢者に自主的で多様化した退職生活を提供する施設)



萬芳病院のOSCE演習室見学



漢方外来で展示されている漢方薬の生薬

目的を達成できたか

目的

- ①台湾の医療・看護について学び、日本の医療・看護についてかえりみる
- ②日本と台湾の文化的差異が医療・看護にどのように影響しているかを学ぶ
- ③台湾、日本の看護学生との交流

評価

- ①台湾と日本の医療・看護は共通点多かった一方で、日本の方が進んでいると感じた点や、改善した方がよいと感じた点もありました。台湾では、看護師は療養上の世話をあまり行わず、点滴・バイタル測定・服薬など医療に関係することを中心に行います。台湾では家族か(個人で雇った)ケアパーソンが常に患者に付添い、療養上の世話をを行います。それにより、少ない看護師配置で対応できるようになっています。
- ②洗髪禁止や冷たい食べ物の禁止、歯磨き禁止など、妊婦が1か月間守らなければいけない風習があり、今でもそれを守っている人が多い。
- ③現地学生とたくさん交流することができました。それを通して、台湾の文化を学ぶこともでき、また英語力(・中国語力)が向上できました。語学力は重要ですが、交流を通して、「コミュニケーション手段は話すことだけではない」ということを実感しました。筆談・ジェスチャー・表情・熱意など様々な方法でコミュニケーションを取ることができました。

反省点

日本・台湾の独自性について考える上で、看護のグローバルスタンダードについてもっと勉強していればよかったと思います。

グローバルな視点とは何か

グローバルな視点とは、「(他国との比較などにより、)日本での固定観念にとらわれずに広い視野を持って考えることができること」だと思います。日本しか知らなければ、現在日本で行われている医療・看護を当たり前だと思ってしまいます。しかし、海外のことを知ることで、日本の医療・看護のよさに気付くこともでき、また日本の医療・看護の今後の課題についても気付くことができます。日本の現状を当たり前と思うのではなく、客観的に俯瞰することができるようになりたいと思いました。

将来の進路決定へどう影響したか

今回の研修を通して、英語への苦手意識が減りました。英語でコミュニケーションを取ることを楽しいと感じるようになりました。今後は、国際学会などの機会があれば逃げずに挑戦していきたいです。また海外研修にも行ってみたいです。

後輩へのアドバイス

- ・日本の医療・看護と比較するためには日本の現状について知ることがとても重要だと思います。日本国内の動向について勉強すること、それを踏まえた上で学びたいことを明確にすることにより、研修でより多くのことを学ぶことが出来ると思います。
- ・他国の文化に触れ、現地の学生とコミュニケーションを取ることはとても貴重な機会になると思います。ぜひ参加してください。

研修支援制度に望むこと

プログラムの意図や内容を早い段階で共有すること